



るうてる



2021年
7月
No.883

■発行所 ■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <https://jelc.or.jp/>

■E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

■発行人 ■ 李明生 koho@jelc.or.jp

■印刷 ■ 精文堂印刷株式会社

■定価 ■ 1部 40円(郵税を含む)

■振替口座 ■ 00190-7-71734

説教 「主に献げて委ねる」

日本福音ルーテル湯河原教会・小田原教会牧師 岡村博雅

「さて、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えてから、座っている人々に分け与えられた。また、魚も同じようにして、欲しいだけ分け与えられた。」
(ヨハネによる福音書6章11節)

(ヨハネによる福音書6章11節)



しかし主はこの心からの献げものを喜んで受け取られた。そして弟子たちに命じておよそ5千人もの人々を座らせると「パンを取り、感謝の祈りを唱えてから、座っている人々に分け与えられた。また、魚も同じようにして、欲しいだけ分け与えられた。」(ヨハネ6:11)。四つの福音書が異口同音に人々は満腹した、「残ったパンの屑で、十二の籠がいっぱいになった」(ヨハネ6:13、マタ14:20、マコ6:43、ルカ9:17)と証言します。一体何が起こったのか? 四つの福音書が、パンと魚を持つている家族がいた、それが主に献げられた、主はこの献げものを神に感謝し、祈り、人々に分け与えられたと語りま



伊藤 天奈

⑩「行きたいですか?」

「教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方の満ちておられる場です。」
(エフェソの信徒への手紙1:23)

「教会へ行きたいですか?」

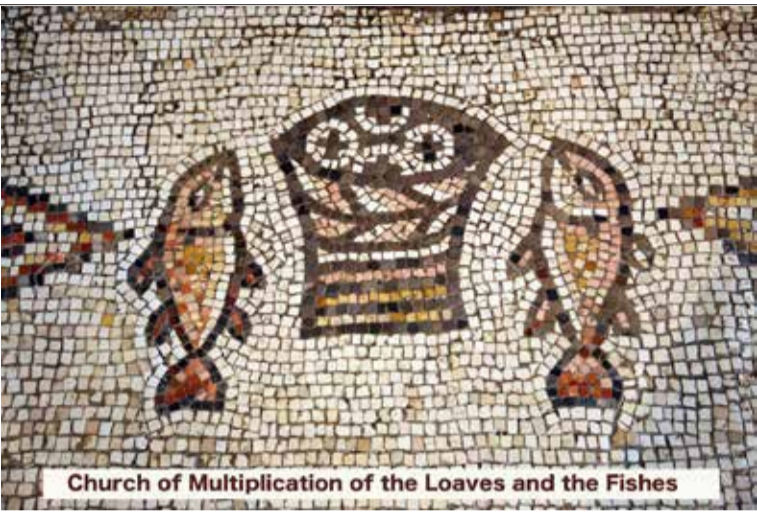
と質問したことを私はすぐに後悔しました。なぜかと言うと、いつも明るく笑っていたその人の目からポロポロと涙が溢れていたからです。

くしゃくしゃになった表情の口から絞り出すように言われた一言は「行きたいよ。」でした。病気で長く入院を繰り返しておられる彼女は、何年も教会には行かれておられないとのことでした。私が彼女の向かいのベッドに入

院した時は嬉しそうに自分はクリスチャンだと話され私に向かい同士だと喜ばれた矢先のことでした。私は心の中で「ごめんない」を繰り返していました。

自分が具合悪いからという理由だけではなく、いろいろな理由で教会へ行かれないという方が多いと思います。特に昨年から拡がった感染症のために、それぞれの方々が通われる教会もいろいろな工夫をされ、教会につながってお一人お一人がいろんなことで礼拝を守られたことと思います。お一人お一人と共に神様はおられるのです。そのようなお一人お一人に「教会へ行きたいですか?」なんて聞けません。

同じようにいろんな状況に置かれて、いろんな理由の方がおられます。その全てが理由や状況をわかっておられるのが神様です。あなたが隣人のために行動していることを神様はわかっています。



Church of Multiplication of the Loaves and the Fishes

「パンの奇跡」は四福音書のそれぞれが物語る唯一の奇跡です。弟子たちにとってこの奇跡ほど印象深いものはなかったでしょう。日が傾きかけた頃、ベトサイダの「人里離れた」(マコ6:35)草地で起こったあの出来事の消息を思い巡らします。それは私たちのこころざしを主に信頼して委ねたときに、主が私たちの思い

を超えて豊かに用いてくださった奇跡のように思われます。
四福音書の中でヨハネだけが主イエスと弟子のフィリポやアンデレとのやりとりを実に生き生きと伝えていて、これは現に起こった出来事だったと感じずにはおられません。

その日、主は「自分を慕ってくる群衆を見て憐れまれ、この辺りに土地勘のある「フィリポ」(ヨハ1:44)に「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか」(ヨハ6:5)と尋ねました。ヨハネ福音書は主が「フィリポを試みるため」(ヨハ6:6)にそのように問われたと述べています。

リポは、「めいめいが少しづつ食べるためにも、二百デナリオン分のパンでは足りないでしょう」(ヨハ6:7)と婉曲に断りました。200デナリオンは労働者の半年分以上の賃金に相当します。たとえ少しづつ配るとしてもかなりの金額です。フィリポは主のこの群衆への「深い憐れみ」(マコ6:34)に共感したものの、とても現実的ではないと結論したので

「あなたがあたがやしないなさい」とのみ言葉を、あの子どもの家族のように聞き取り、自分たちに出来る精一杯を、主に献げて委ねる人々が、次々と起こされたとしたらどうでしょう。主イエスによって私たちが神につながるべきとき、そこにはきつといつの時代でも、今も、あの時のように「神の国」のような世界が実現します。

「あなたがあたがやしないなさい」とのみ言葉を、あの子どもの家族のように聞き取り、自分たちに出来る精一杯を、主に献げて委ねる人々が、次々と起こされたとしたらどうでしょう。主イエスによって私たちが神につながるべきとき、そこにはきつといつの時代でも、今も、あの時のように「神の国」のような世界が実現します。

「あなたがあたがやしないなさい」とのみ言葉を、あの子どもの家族のように聞き取り、自分たちに出来る精一杯を、主に献げて委ねる人々が、次々と起こされたとしたらどうでしょう。主イエスによって私たちが神につながるべきとき、そこにはきつといつの時代でも、今も、あの時のように「神の国」のような世界が実現します。

「あなたがあたがやしないなさい」とのみ言葉を、あの子どもの家族のように聞き取り、自分たちに出来る精一杯を、主に献げて委ねる人々が、次々と起こされたとしたらどうでしょう。主イエスによって私たちが神につながるべきとき、そこにはきつといつの時代でも、今も、あの時のように「神の国」のような世界が実現します。

るうてる法人会連合研修会

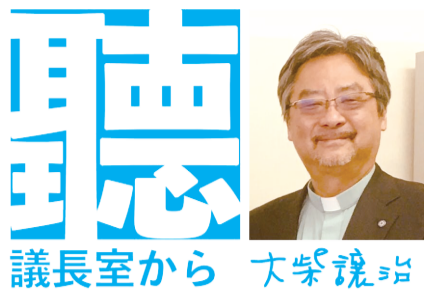
COVID-19下での悲嘆とそのケア

8/23

無償参加

各会からの報告

るうてる法人会連合



議長室から 大柴謙治

恥と罪

「ルターとボンヘッファー」における罪の赦しの神学(1986)。当時29歳の私にはまだ「罪責感情(罪/Guilt)」という次元しか見えていませんでした。9年の牧会経験を経て米国で学ぶ機会が与えられます。2年の格闘の末辿り着いた主題は「Ministry to the Shame-bound Japanese」(1997)。人生の午後が始まろうとする40歳にしてようやく「羞恥感情(恥/Shame)」の次元が見

えてきたのでした。両者は共に深い痛みを伴う感情で重なり合うことも少なくありませんが、区別が必要で、異なる対処が求められるからです。罪が行為の次元における痛み/悔いである

現が自己の存在を抹消したいというところから、それは分かります。現に聖書では恥の方が罪より先に登場します(創世記3:6-10)。また、強い恥意識を持つ人は強い誇りの意識をも併せ持ち(職人気質など)、両者は一対、表裏一体です。罪からの解放には「赦し」が必要ですが、恥からの解放にはあの放蕩息子の父親のように、「ボロボロになった惨めな(無力さを mover された)自分をありのままに受容(accept)して、愛」が必要なのです

「母なるキリスト」の姿をそこに見ているのだと私は思います。恥の研究を通して出会った二つの名言を紹介いたします。「高くジャンプするためには低く屈まなければならないように、恥意識の強さはその人の魂の飛翔性の高さを示している」(マックス・シェラー)。「自分がどうしようもないと思うまでにその一点こそ、神がご自身の聖名(イエス・キリスト)を署名してください」(一点である。なぜなら神こそ私たちのために無となつてくださったお方なのだから)(トマス・マートン)。

与する重要性から、「(神の)民の業」である礼拝という側面が目ざされてもよいでしょう。教会は「礼拝する民」の共同体です。そのために、礼拝において様々な奉仕、役割が私たちに与えられています。定められた時間に定められた場所に集うところから始まります。その神の民の業に仕える司式者の重要性はいうまでもありませんが、何より会衆、礼拝に集う一人一人が、恵みに与るだけでなく、応答し参与する者として、奉仕と役割を担っていることを確認しましょう。

「教会賛美歌 増補」解説



⑬ 讚美歌委員からの声(8) 讚美歌委員会 石丸潤一

(西日本福音ルーテル新田教会牧師)

千葉県市川市にあります西日本福音ルーテル教会新田教会で牧師をつとめています。石丸潤一と申します。

『教会賛美歌増補』の編集のため、四つのルーテル派教団から讚美歌委員会が構成されました。私は、当初委員をつとめてくだ

さつた当教団の小賀野英二牧師、ハリ・フォウイネン宣教師の後を継ぐかたちで、委員に任せられました。以来、委員の働きをつとめる間に、関西、山陰、関東と牧会の働きの場が変わりました。それだけ多くの年月がかかったにもかかわらず、「分冊1」の発行間近である今でも、まだ作業が足りないと感じます。原曲の選定、新作賛美の募集、外国作品の翻訳、訳詞の作成、伴奏の編曲、楽譜の体裁の統一、著作権のチェック、等々。1冊の賛美歌集の背後に膨大な作業が隠されていることを、委員となつて初めて知らされました。

私は、教団の賛美委員会や韓国の賛美宣教師の奉仕(韓国語賛美の訳詞作成など)にも携わらせて頂いています。音楽や文学の専門的な学びを修めたわけではなく、「賛美が好き」という程度の者です。讚美歌委員のつとめには分不相応と常々感じていました。ですが、神様は、委員の働きを通して、恵みに気付かせてくださいました。様々な編集作業に携わること、私の信仰生活が、先人のすばらしい信仰と賜物とバイタリティの上に立たせて頂いていたことを思い起こされました。また、音楽に造詣の深い他の委員の

皆様に先立つ神様の恵みに出しました。皆様の感謝し、さあ、とを学ばせて頂き、得がたい経験を重ねました。感謝です。 賛美は、私たちが出る前に、多くの恵みに支えられています。 父なる神様が音のある世界を創られ、音楽を与えられました。御子イエス・キリストの十字架と復活によつて、神様を賛美するいのちと舌を頂きました。聖霊が私たちに働いて、私たちの賛美する信仰を導かれます。聖霊の導きのもと、多くの信仰者が、みことばに基づく賛美歌を生み出しました。

現在、新型コロナウイルス感染症の下、この当たり前だったことが、そうではないことを改めて知らされる経験をしていきます。整えられた礼拝堂で、司式者の下で共にみことばを聞き、賛美し、祈り、聖餐に与ることが、まさにかげがえのない恵みであることを痛感します。 また、今回のハンドブックでは、これまであまり触れられてこなかった「信徒の礼拝奉仕」の項目が加えられました。もちろん、これまでも各教会で様々な奉仕がなされてきました。まず特別な賜物の奉仕として奏樂があり、信徒

私たちの礼拝

一 式文ハンドブック

⑫ 信徒の礼拝奉仕



松本義宣(式文委員会委員長・東京教会牧師)

礼拝(Liturgy)を表わすギリシャ語はレイトゥルギア、原意は「民の業・働き」です。新約聖書では、ヘブライ語の「祭儀」の訳語として用いられています。

現在、新型コロナウイルス感染症の下、この当たり前だったことが、そうではないことを改めて知らされる経験をしていきます。整えられた礼拝堂で、司式者の下で共にみことばを聞き、賛美し、祈り、聖餐に与ることが、まさにかげがえのない恵みであることを痛感します。

もちろん、礼拝はまず神様が人にもつて奉仕して下さる出来事です。その恵みに応答する意味で、しかも私たち全

また、今回のハンドブックでは、これまであまり触れられてこなかった「信徒の礼拝奉仕」の項目が加えられました。もちろん、これまでも各教会で様々な奉仕がなされてきました。まず特別な賜物の奉仕として奏樂があり、信徒

皆様の感謝し、さあ、とを学ばせて頂き、得がたい経験を重ねました。感謝です。 賛美は、私たちが出る前に、多くの恵みに支えられています。

また、それは礼拝での様々な担当だけではなく、受付けや新来会者、高齢者や子どもたちへの配慮、マイク等の整備等、すべてが大切な奉仕と役割であることを、改めて各教会で話し合い、担

全国教師会 オンライン集会報告

立山忠浩
（全国教師会会長・
都南教会牧師）

連休最後の5月5日に全国教師会オンライン集

会を開催しました。初めての試みでしたが、60名もの参加がありました。全国教師会の総会は、2年ごとに開催される教会の全国総会の前日に開くことになつていますが、全国総会が来月5月に延期されたので、それに合わせて来月に延期しました。2年に一度、教師全員が一堂に会する貴重な機会を失ったことになりました。それに

を分かち合い、元気な姿を確認し合う恵みの機会となりました。

教会規則には教師会の任務が記され、諸事項を適切に処理する役目が明記されています。例えば「教理、神学に関する共通の理解に関わる事項」とあります。教理や神学に関することでの教師間の共通理解を求めています。霊的修養や生涯研修、宣教に係わる事項なども列記されています。

ただ、教師会の任務を語る前に、整えなければならぬ課題があることを痛感しています。以前から内在していた課題が、このコロナ禍によって顕在化しているのです。牧師不足の深刻さがさらに増し、1人の牧師が複数の教会を牧会することが当たり前です。教会と関連する諸施設や保育園・こども園などの業務も多くの牧師が担っています。いづれも宣教上極めて重要な働きであるゆえに、その任を託される牧師は懸命に励んでいます。どこかからだが悲鳴を上げていくように思えるのです。私に妙案があるわけではありません。でも教会全体で考えなければならぬ構造的な問題です。

宣教の地に牧師は1人で派遣されます。本来孤独は避けられません。しかし宣教の地での現実について語り合い、分かち合える仲間がいるならば、きつと孤独感や孤立感から逃れる道が見つかるのではないかと。まずここから取り組みたいのです。教師会が始まった試みは、今秋のオンライン退修会へと継続されることとなります。

コロナ時代の 説教と聖餐

ルター・セミナー
2021年報告
江口再起
（ルター研究所所長）

5月31日〜6月1日にルター研究所恒例の「牧師のためのルター・セミナー」が開かれました。しかし今年のセミナーは例年とは少し違う形で開催。一つはコロナ禍のためウェブ会議方式 (Zoom) で開かれたこと、そしてもう一つはセミナーの初心にもどって、牧師の真剣な討議の会としたことです。

コロナ禍の困難の中にあつて、牧師こそが先頭に立つて、改めてもう一度教会が直面している諸課題について学ぶ必要があると考えたからです。というわけで全国から1日目約60名、2日目約50名の牧師(現職、引退)と神学生が参加しました。主題テーマは、ズバリ「コロナ時代の説教と聖餐」。教会にとって一番大切なことは、言うまでもなく「説教」と「聖餐」ですが、このコロナ禍にあつて、いつも通り礼拝ができなかつたり、オンライン礼拝に切り替わつたり、聖餐式ができなかつたり、今、全世界の教会において歴史上、体験したことのない変化が起こっています。この問題をどう考えるべきか。

2日目午前は、宮本新牧師(神学校)より講演「ルーテル教会という構造」が、教会にとって一番大切なことは、言うまでもなく「説教」と「聖餐」ですが、このコロナ禍にあつて、いつも通り礼拝ができなかつたり、オンライン礼拝に切り替わつたり、聖餐式ができなかつたり、今、全世界の教会において歴史上、体験したことのない変化が起こっています。この問題をどう考えるべきか。

2日目午後は、全体討議「ルーテル教会はどこへ行く?」ポストコロナの時代を見ずえて。参加者全員でコロナのこと、教会の過去・現在・未来、そしてその中の牧師の使命と実存など、喧々諤々、もとより教科書的な正解があるわけではありませぬ。しかし、このように信仰について、教会について、説教について、聖餐について、かくも熱く真剣に話し合い、学び合うところこそ、ルーテル教会の伝統と、そして未来があることを実感できるセミナーとなりました。

1日目午前はシンポジウム「コロナ時代の説教」。後藤由起(本郷教会)、小泉基(函館教会)、神崎伸(天王寺教会)の各牧師より実際の教会現場からの説教事情と課題をめぐって発題がありました。午後は立山忠浩牧師(都南教会)より「説教と聖餐」について、ルターの著作と聖書を繙きつつ講演がありました。リアクターは高井保雄(福音書4章)で、ヨハネとサマリアの女の問答を

めぐり「まことの礼拝」とは何かが問われました。

アメリカ福音ルーテル教会のコロナ対応の問題を糸口に、そもそもルーテル教会とはどういう教会なのか、いったい礼拝とは何か、そして改めて伝道(宣教)は今日という時代において、いかにあるべきなのか、問いただされました。リアクターは大柴譲治牧師(大阪教会)。

日本福音ルーテル教会の留学制度を利用して昨年よりアメリカ、ミネソタ州の病院でチャプレンとして週5日、フルタイムで働き出し、もうすぐ1年になるうとしています。コロナ室と精神科病棟が私の担当でしたが、ワクチン接種開始から半年コロナ入院患者は激減し、コロナ患者よりも一般患者の看取りや家族のケアをする時間の方が多くなつてきました。一般病棟の患者、家族のケアの中にはアメリカの社会問題が凝縮されています。アメリカの自己破産の大きな要因は医療費であり、コロナショックにより失業、車や家を売り入院費用を賄わなくてはならない人々がいます。ペトナム戦争、イラク戦争のトラウマで苦しみ入院している患者の元に駆けつける夜もあります。また非常に驚くことにこちらで

アメリカ病院聖職者 チャプレン報告③

関野和寛

は家族や近親者が殺人事件に巻き込まれ癒える事がない傷と共に闘病をしている患者がとて多く、そのような苦しむ心に向き合う働きをしています。ここミネソタ州では犯罪率がコロナパンデミック前の何倍にも跳ね上がっています。経済が回復方向に向かっているように見えますが、格差断絶、マイノリティーが貧しい人々の苦しみは日に日に大きくなつていきます。

病棟を周りそのような患者と向き合うという事は、一人ひとりと向き合うということと同時に社会問題、そして世界の痛みに向き合うことなのだと感じています。そしてその大きな傷の前にチャプレンは無力で解決策を持つていません。けれどもその無力さからである共感、そして祈りの中に神が働く事を信じて日々努めています。この秋からはここで得たものを持って日本の神学校で臨床牧会訓練の指導に参加させていただきます。

「写真」チャプレン室は各宗教に対応できるように準備が整えられている



「ありがとう神さま」 みんなであつなろう！ Zoomでルーテル子どもキャンプ

例年8月に行われている「子どもキャンプ」の案内です。今年もコロナの影響で実際に集うことはできませんが、ウェブで全国の友達とつながろう！というこ



去年の子どもキャンプ

とでキャンプを企画しました(小学校5・6年生、中学校1年生が対象です)。をお願いいたします。

キャンプ案内は日本福音ルーテル教会TNGブログをご覧ください。
<https://the-next-g.blogs.pof.com>



日時 8月9日(月・祝) 午後2時から1時間程度 (ウェブ会議サービス Zoomを使用します)

テーマ「つながり くかみさまありがとう」
主題聖句「いつも、あらゆることについて、わたしたちの主イエス・キリストの名により、父である神に感謝しなさい」エフェソの信徒への手紙5・20
オンラインで全国の友達と顔を合わせて、神さまに「ありがとう」と思えることをグループで分かち合

第7次総合方策の紹介(3)

事務局長 滝田浩之

■方策本文より

総合方策の目指すもの
本総合方策の目指すものは、一つの教会として「経済的自給」を背景にしつつ、「宣教的自立」を果たすことにある。

様々な外的要因によつて右往左往する教会ではなく、牧師も信徒も互いに知恵を出し合つて討議し、採択し、その合意のもとに目指すべき「教会の姿」を共有し、そこへ共に歩みだしていく自立した教会である。

それでは、私たちが目指す「教会の姿」とは何か。それは、戦後のキリスト教ブームの再来を期待する教勢拡大にはない。それは、明確に「ルター派に立つ教会の形成」である。それでは「ルター派に立つ」とは何か。それは、聖書のみ、信仰のみ、恵みのみ、すなわちキリストのみに生きる教会である。だから福音に生きる教会は、賛美し、祈る。つまり喜びをもって礼拝する。ルターは、私た



また、参加申し込みは以下のサイトからお願いいたします。
(7月12日(月)まで)
<https://forms.gle/KZVPJJK63EJEdwNj8>

あわせて、グループリーダーなど、キャンプをお手伝いしてくれるスタッフも募集しています(18歳以上で堅信を受けている人)。TNGブログからお申込みください。

ちがひとりて祈るのでなく、すべてのキリスト教会がともに祈っていることを強調した。一つの祈りは全世界に関わる。祈りは、全世界を一つの共同体とする。

だからルターは、信仰の喜びに生きるキリスト者の他者への愛の奉仕、つまり隣人愛を強調した。『キリスト者の自由』が語る通り、キリスト者は、すべての者の上に立つほど神によつて自由にされており、同時に愛において他者のために存在する。『わたしもまた隣人のために一人のキリストになる』(『キリスト者の自由』第27項)。

また私たちは知つて「隣人と共にキリストがおられる」ということを。よつて「隣人のために一人のキリストとなる」とは、「隣人と共にあるキリスト」に出会うことでもある。この福音の相互性、キリストの喜びを分かち合

「教会の姿」がある。この時、この「教会」という概念は、明確に「全信徒の集まり(人)」である(アウグスブルク信仰告白第7条)。

教会の使命は、神の言葉によつてすべての人が、この信仰へと導かれ配慮されることにある。この定義に照らす時、ここで語られる「教会」はすでに個々の教会の建物や組織を意味するのではない。むしろ重要なことは、この一人一人の教会生活への責任を誰が持つかという点である。

つづつ教会力の更なる強化が起こることが不可欠である。しかし教会の源泉、それは「説教とサクラメント」である。そして、この方策が問うのは「説教とサクラメント」が会衆の中で「喜びの出来事」となるためには教会の分かち合う力が不可欠であるという、この同時性である。更に第7次総合方策は、この教会の射程を、今、礼拝に集う者はもちろん、未だ出会うていない新たな仲間へと向ける。集いし者、そしてこれから出会う者へ福音が及ぶ時、すべての必要は主によつて満たされると信じる。

「誰が私を福音の喜びへと導くのか」、表現をかえて言えば、「誰が私を看取り、キリストが共にあることを想起させ、死を終わりとせず新しい旅路へと導くのか」という牧会の責任の所在を明確にすることこそ宣教力の向上につながるかと考える。

同時に、それは「牧師」の牧会力の向上をより一層必要とすることを意味する。もちろん牧師が信徒と協働し

「誰が私を福音の喜びへと導くのか」、表現をかえて言えば、「誰が私を看取り、キリストが共にあることを想起させ、死を終わりとせず新しい旅路へと導くのか」という牧会の責任の所在を明確にすることこそ宣教力の向上につながるかと考える。

同時に、それは「牧師」の牧会力の向上をより一層必要とすることを意味する。もちろん牧師が信徒と協働し

喜びの分かち合いこそ、私たちの使命です。この使命を私たちは自らの足で立つて果たします。

自立とは自らの限界を踏まえつつ、責任をもつて生きるということである。経済的な自立にある時、それは自ずと極めて現実的な判断が求められることは言うまでもありません。経済だけではありませぬ。牧師の数もまた限りがあります。このような限りの中で、できないことを峻別しつつ歩むことこそ「宣教的自立」であると本方策は考えるのです。

「第6回あつてる法人会連合全体研修会」開催のご案内

2021年度、法人会連合ではオンライン(Zoom)にて全体研修会を開催することとなりました。関係法人職員の皆様、また教会員の方々のご参加をお待ちしております。なお人数把握の都合上、各法人、各教会でとりまとめてお申し込みをお願いいたします。

このように時にこそ、私たちは「ルター派に立つ教会」とは何かという、私たちの原点に立ち還ることが重要だと考えました。福音の喜びを確認するということなのです。この

参加方法 オンライン会議システム「Zoom」を使用

参加費 無料(通信費は各自のご負担となります)

主題講演「COVID-19下での悲嘆とそのケア」大柴譲治牧師

※氏名とメールアドレスを各法人・教会ごとに取りまとめ頂き、左記EメールまたはFAXにてお申込みください。お知らせいただいたメールアドレスにZoomミーティングURLのご案内を8月初旬にお送りいたします。

申込・問合せ先 日本福音ルーテル教会事務局 担当・平野 電話(03)3260-8631 Eメール sounu08@jelc.or.jp FAX(03)3260-8641 ■申込締切 2021年7月30日(金)

